

産業建設常任委員会審査概要報告書

委員長 山上 尊士

- I 開催年月日 令和 7 年 12 月 18 日（木）
II 会議時間 午後 1 時 00 分～午後 2 時 06 分
III 出席委員等 〔出席委員〕◎山上 尊士 ○酒井 善広 水越 進一
塚本 政彦 林 貴文 福井 直樹
筏井 哲治 曾田 康司
（◎…委員長 ○…副委員長）
〔議長〕 曾田 康司 議長は委員として出席
〔副議長〕 中村 清志
〔説明員〕 別紙名簿のとおり
〔委員外議員〕 山野井拓也 植野 佳奈 田中 勝文
〔事務局職員〕 松本 武司 島田 輝 越田 裕喜
〔傍聴者〕 2 名

IV 審査の概要

1 付託議案について

- 議案第 107 号 令和 7 年度高岡市一般会計補正予算（第 4 号）のうち本委員会所管分
議案第 109 号 令和 7 年度高岡市駐車場事業会計補正予算（第 2 号）
議案第 113 号 令和 7 年度高岡市水道事業会計補正予算（第 1 号）
議案第 114 号 令和 7 年度高岡市工業用水道事業会計補正予算（第 1 号）
議案第 115 号 令和 7 年度高岡市下水道事業会計補正予算（第 3 号）
議案第 125 号 工事請負契約の締結について
（下伏間江福田線立体交差整備二期その 5 工事）

及び

- 議案第 139 号 市道路線の認定及び廃止について

以上、予算議案 5 件及びその他議案 2 件の計 7 件について、審査の結果、全会一致で、いずれも原案のとおり可決すべきものと決した。

〈 審査の過程における質疑等は次のとおり。 〉

（以下、質疑・質問内容は ○、答弁内容は △ で表示）

【議案第 107 号のうち、除雪事業費について】

- 除雪事業費の増額の内容は。
- △ 3 億 1,137 万 1,000 円の増額補正のうち、除雪業務の委託料として 2 億 5,534 万円、需用費として破損した工作物や機械の修繕費に 5,603 万 1,000 円を計上している。
- 全市一斉に除雪する場合、どのくらい費用がかかると想定しているのか。また、過去と比較してどれくらい増えているのか。
- △ 市内一斉に除雪する費用は、約 7,000 万円である。10 年前は約 5,000 万円であったと認識している。

【議案第 107 号のうち、高岡古城公園維持管理事業費について】

- 寄附金として 1,000 万円が計上されているが、現在の寄附額の状況は。また、令和 6 年度と比較して増減はあるのか。
- △ 高岡古城公園景観再生プロジェクト 2025 の寄附の状況について、7 年 12 月 18 日の午前時点で、個人、企業、団体から約 210 件、962 万 6,500 円の寄附金をいただいている。6 年度の実績は約 1,970 万円だが、そのうち企業版ふるさと納税に 1,000 万円の大型の寄附があった。その分を除くとおおむね同じペースで推移している。6 年度は 12 月に寄附が多かったため、補正として計上した 1,000 万円の寄附額も確保できるものと期待しており、最後の追い込みで声かけを強化している。
- 古城公園の景観が非常に良くなった一方で、電線や電柱が目立つようになったという声もあるが、見解は。
- △ こちらにもいくつか意見が届いている。これまでの取組として、電柱 1 本を周りと馴染む色に試験的に変更した。今後、電線についてもどうするかを考えていかなければならない。技術的な検証や手続きが多数想定されるため、一生懸命検討していきたい。
- △ 電線も含めて、国指定史跡でこういった取組ができるか、全国で同様の問題に取り組んでいる先進事例を調査しており、小田原城、名古屋城、福岡城などを現在調べている。
- 簡単なものではなく、試行錯誤がいるかと思う。引き続き、検討することを要望する。(要望)

【議案第 125 号について】

- 下伏間江福田線立体交差整備に関し、その 5 工事とあるが、いつまで続くのか。
- △ 下伏間江福田線立体交差整備二期その 5 工事は、主に U 型擁壁と呼ばれるアンダーパス本体のコンクリート構造を築造するものであり、その 5 工事で本体工事は終わりである。その後は付帯的な工事として側道、電線電柱、消雪などの工事に取り組む予定である。

2 報告事項について

〈 当局から、次の報告・説明があった。 〉

〔都市創造部〕

- 。高岡市道路除雪実施計画（概要）について

〈 委員から、質疑等はなかった。 〉

3 閉会中の継続審査について

本委員会の所管事項について、閉会中も継続して調査する必要があるため、会議規則第 104 条の規定により、委員長から議長に継続審査を申し出ることとした。

4 その他

- 。次回の本委員会の開催について

令和 8 年 2 月 5 日（木）午後 1 時に開催することが報告された。

〈 委員から、次のとおり質疑等があった。 〉

【高岡古城公園について】

- 全国的に話題を集めた特定外来種の捕獲イベントの成果と今後の予定は。
- △ 令和 6 年、古城公園でアリゲーターガーが目撃されたことを契機に、堀に生息する特定外来種の捕獲に関するイベントを 2 回実施した。このほか、全国的なテレビ番組の企画提案なども受け入れて捕獲に取り組んでいる。これまでの釣果は合計約 220 匹であり、個体数を減少させたことは、増殖を抑える上で一定の成果と考えている。こうした取組が一過性にならないよう、7 年度立ち上げた古城公園応援隊の捕獲会を今後も継続していきたい。
- 今後立ち上げる予定の若手職員で構成するワーキンググループの内容は。
- △ 前田利長が築いた高岡城の城跡である高岡古城公園は、現在も高岡を代表する観光スポットであるだけでなく、観光コンテンツ化できる魅力やポテンシャルを数多く有していると考えている。このため、現在取り組んでいる古城公園景観再生プロジェクトと並行して、市内の若手職員で構成するワーキンググループを立ち上げるべく準備を進めている。ワーキンググループでは、高岡古城公園の持つ魅力と課題を改めて洗い出し、古城公園の魅力をさらに高めることができるか、どのような新しいコンテンツを提供できるか等のアイデアを出してもらうことを考えている。若手ならではの感性、既存の枠組みや方法にとらわれない柔軟で自由な発想を発揮してもらうことが、ワーキングを設置する意味だと考えている。古城公園の魅力向上と、磨き上げのための新しい提案が出てくることを期待している。
- 大変すばらしい取組だと思う。ワーキンググループから出てきたアイデアが事業化されることを目指す意気込みで続けてほしい。（要望）

【新高岡駅周辺地区の市街化調整区域の見直しについて】

- 新高岡駅周辺地区の市街化調整区域の見直しのためには、県とどのような調整が必

要となるのか。市民に分かりやすくなるように手続き等の必要な情報を改めて確認したい。

- △ 市街化調整区域の見直しを県が検討するにあたり、県及び市の土地利用方針との整合性、民間計画の確実性、市街地内における現在の土地利用の状況などの観点から、国と県において確認作業が必要となっている。この確認作業では、市街化区域内での開発の余地、類似施設の立地状況と希望箇所での開発の必要性、農地保全などの観点から、見直し案に問題がないかといった指摘がなされる。この指摘事項は、県と国による協議や調整に必要な情報であり、市としても速やかに回答しているところである。
- 簡単ではないことは重々承知している。数年前、初めて見直しを考えているという答弁があったときに、新高岡駅の周辺という良い立地の場所であるため、様々なオファーが来るのではという期待があった。しかし実際にはオファーがたくさん来ることはなかった。逆に言えば、今の高岡市は、新高岡駅という玄関口の周りを、当局側が見直すつもりでいると意思表示をしても、民間事業者が積極的に開発を申請してくる状況ではないということである。今の高岡の状況をどう考えるのか、問題提起としたい。なぜ民間事業者がチャレンジしようと思わないのか。市として、魅力ある商業地になる、ビジネスができるなど、もっと投資したくなるよう示していく必要がある。
- △ 現地を見ると、駐車場は足りていないが、目に入る大部分が駐車場であるという状態である。その範囲を過ぎたあたりに市街化調整区域がある。今後どうしていくかは、非常に悩み深いところである。全国的な問題ではあるが、既存の市街地の衰退も待たなしの課題である中で、広げていくからには、そこでなければならぬものや既存の市街地内には建てることができないものが必要になるだろうと県から助言をもらっている。委員の指摘の通り、建設希望者が市にどんどん来るといった状況にもないため、現況をよく調べ、業界の方々のニーズとの接点を見出すことに努めていきたい。

【用排水路の安全対策について】

- 用排水路の安全対策について、転落事故防止に向けた本市の取組状況は。
- △ 安全対策の推進にあたっては、住民の皆様に、転落事故を自分事として捉えてもらい、自分も当事者となりうると認識してもらうことが重要であると考えている。このため、本市では、地域住民によるワークショップ等に市職員も参加して、住民とともに、地域の危険箇所の点検、必要な安全確保対策の検討を行っている。加えて、令和5年度からは、こうした安全点検活動に基づき、地域が実施するソフト対策やセミハード対策に対する支援制度も創設した。各地域においては、水路周辺の状況等に応じた取組を進めているところである。7年度からは、より実行性の高い対策を実施できるよう、補助上限額を引き上げて、安全確保に向けた取組の拡大を後押ししている。
- 積雪、凍結シーズン前に注意喚起をしては。
- △ 注意喚起の取組としては、多面的機能支払交付金の実施組織へ注意喚起のチラシの配布、提供を通年で行っており、市ホームページでも、情報を掲載しているところである。また、富山県が年に3回、春、秋、冬に設けている農業用水路転落事故防止強化期間に合わせて、市ホームページや広報誌に注意喚起の記事を掲載している。特に冬季期間は、積雪によって、水路と地面の境界が不明瞭でわかりにくくなり、除

雪や融雪で水量が増えることにより、転落事故の危険性がより高まる。そのため、除雪作業等で近づく際は、十分に注意するというメッセージを追加した注意喚起を行っている。さらに、適切な時期において市公式LINEで、同様のメッセージを配信していきたい。

- 用水路は本当に危ないため、注意喚起をし続けるしかない。雪が降ってきた場合、二塚や戸出など農地が多いところは、水が流れている用排水路に除雪した雪を捨てる。雪が流れていく間はいいが、詰まると用水をせき止めてしまう。これを直そうとして用水に落ちる。極寒の中で用水に流されたら命に関わる。歩くときに気をつけることだけでなく、用水路に詰まった雪を1人で崩さないなどの注意について、考えている点があれば教えてほしい。
- △ 除雪の作業の際、同じように危ないと思う場面はたびたびあり、委員の指摘はもっともだと考えている。指摘のあった視点も、市公式LINE等に盛り込むことを検討したい。

【若者たちによる本市の観光PRの依頼について】

- 中高生などの若者たちに本市の観光PRをお願いしては。
- △ 若者世代ならではの視点や情報発信力は、新たな観光客層の誘致や地域に対する愛着心の醸成を図る上で大変重要であると認識している。本市では、市内の高校生が高岡の観光素材を学び、その魅力の発信に繋がる活動を実施したほか、専門学校生が地域の観光資源を発掘して、SNSなどを活用して発信するなど、若者による活動も展開しており、本市としてもその活動を支援しているところ。市としては、知名度を高めるために発信力を強化したいというニーズがあり、一方で中高生は、映える写真を撮り、それを発信したいというニーズがあると考えている。双方のニーズをマッチできるような、観光スポットを題材とした映える撮影テクニック講座のようなものを開催できたら面白いと考えており、検討を進めてみたいと思っている。
- すばらしい取組だと思う。昨日、高岡南高校に市職員が出向き、高校生たちと一緒に本市の課題について、話し合い、発表をする活動をしていた。その中で、なぜ若者が出ていくのか、あるいは高岡の魅力は何かといったテーマで話し合っていたが、せっかく出たアイデアであれば、本当にPRすれば面白いと考えた。ぜひ活用できればと思う。引き続き、本市の活動につなげてもらいたい。(要望)
- △ 委員の指摘のとおりだと思っている。市の方でも様々な形で支援していきたい。こういった経験が中高生の郷土愛や高岡の良いところを発見するような機会となり、それを発信することで、それが自分のものになるといった効果が期待できると考えている。積極的に行っていきたい。

【観光に関する市民アンケートについて】

- 本日から2月にかけて、観光に関するアンケートをすると聞いた。令和6年と比較して、工夫した質問内容等があれば聞きたい。
- △ 今回、観光振興ビジョンを策定するということで市民の皆様にアンケートをお願いしている。その中で、市民自らが、高岡をPRすることがあるかななどの項目を設けて

おり、前回から1歩踏み込んだ部分である。

【次期「高岡市空家等対策計画」策定前の実態調査について】

- 高岡市空家等対策計画の次期計画策定の前に、現状を把握するための実態調査が必要と考えるが、具体的なスケジュールは。
- △ 現行の計画の策定の前に実施した空き家等の実態調査は、およそ8ヶ月間の期間を要している。次期計画の策定に向けての実態調査では、空き家の状態や分布状況がより適切に把握できるよう、各地区の自治会の協力を得るとともに、民間業者への業務委託等も含め、現在調査方法を検討しているところである。現時点で想定しているスケジュールでは、令和8年度に、まず空き家の実態調査に取りかかり、有識者等から成る協議会での審議を重ねて、9年度末までには計画策定したいと考えている。
- △ 現在の計画は、実態調査をして、5年間じっくりと様々なことを調査研究しながら策定されたと考えており、それに比べて今回は2年ほどの短期間ということで、間に合うのか非常に心配している。実態調査に8ヶ月間かかるということならば、早急にしっかりと調査していただきたい。(要望)

〈 当局から、次の報告・説明があった。 〉

〔産業振興部〕

- (1) 「北前船伝統的工芸品ネットワーク」の設立について
- (2) 第40回日本海高岡なべ祭りについて

〈 委員から、質疑等はなかった。 〉

〈 以上で委員会を閉じた。 〉

産業建設常任委員会 当局説明員（25名）

産業振興部長	山 本 真 弘	都市創造部長 技術政策監	梶 本 敏 規
産業振興部次長	須 田 稔 彦	都市創造部次長	伴 孝 宏
産業振興部次長	表 野 勝 之	都市創造部次長 震災復旧推進課長	山 森 久 史
産業振興部参事（兼務）	伴 孝 宏	都 市 計 画 課 長 福岡駅前土地地区画整理推進室長	橘 篤 志
産業企画課長	今 方 順 哉	景観みどり課長	田 口 昌 子
商業雇用課長	澤 田 剛 章	道路整備課長	中 出 裕 嗣
観光交流課長	野 村 岳 人	土木維持課長	中 澤 俊 一
農業水産課長	割 田 一 郎	建築政策課長	氷 見 和 人
農地林務課長	横 山 太 一	営繕課長	井 林 哲 雄
みなと振興課長	上 田 浩 樹		
地域振興交流課長	有 栖 友 広	上下水道局長	寺 井 義 則
		総務課長	小久保 光章
農業委員会事務局長（併任）	須 田 稔 彦	営業課長	熊 本 敬 二
		水道工務課長	片 岡 利 行
		下水道工務課長	高 林 隆
		施設維持課長	村 栄 正 英